

午後2時49分開会

○小枝委員長 文化継承・コミュニティ活性化特別委員会を始めさせていただきます。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。

欠席届はありません。

お手元に本日の日程及び資料をお配りしています。この日程どおりに進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 ありがとうございます。

日程1に入ります。勉強会の振り返りと今後の調査についてです。前回12月5日に実施した勉強会について、各委員の皆さんに講師の話をもった感想や、今後の当委員会を取り上げたいテーマ、講師をアンケートさせていただきました。しかし、1点ちょっとおわびがございまして、私のほうの手違いで、大坂委員のほうについ先日までご配付をするのを忘れておりました、申し訳ございませんでした。そういう状況ではありますが、改めましてこの委員会の場で各委員の皆様からご発言を頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 ありがとうございます。

では、それを踏まえまして、今後の調査について皆さんと意見交換したいと思いますが、よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。

では、恐縮ですが、どちらから。では、すみません。小林委員のほうからお願いいたします。

○小林委員 この前の勉強会というか講師を招いた会で、非常に本屋さんというか、神保町の厚みを感じる千代田区の歴史を感じました。私は、前から千代田区にはすごくいい方がいらして、鈴木理生さんというのが、これ、本を出しているんですけども、『江戸・東京の地理と歴史』という、これもすごくいい本で、図書館にもありますんで見てもらえばいいと思うんですけど、これも千代田区の職員だった。職員の方で、もう亡くなっているんですけども、お亡くなりになった。そういう引き継がれた人が千代田区に残っていて勉強していたという中に小藤田さんって、僕が推薦している人が入っているんですね。そういう方、それから加藤紫織さん、僕は練成の3331でお会いしてお話を聞いたときも、物すごくやっぱり千代田区を愛してくれていて、千代田区の歴史のことを語ってくれたんで、もう一度聞きたいなと思うんで入れました。あと、後藤さんもそうですけれども、せっかくこういう千代田区の語り部だと思うんですよ。歴史を、要するに人間の生きた道を、千代田区で生きた、神田で生きた、江戸で生きた人の歴史を語る語り部っていうなくなってしまうんで、ここで聞いた話というのは委員会の議事録だけで終わるのはあまりにももったいないと。だから委員会としては最後集約するときに、例えば「千代田区10人の語り部に聞きました」みたいな形で、聞いたというのをちゃんとした形で残し

て、我々の委員会だけじゃなくて、議事録とかというとなかなか読めないんで、せっかくちょっとした冊子でも作って、やっぱりそれは区民にも配ってほしいし、見てほしいし、それこそ図書館にも置いてほしいし、大したもんじゃないんですけども、やっぱり見れる千代田区の歴史、で、それを見てまた歴史が続いていくと思うんで、そういうようなまとめがこれから講師も何人か来られると思うんで、ただ、忘れちゃうんで、聞いただけじゃなくて、そういうようなことに行けばいいのかなと私は思います。

以上です。

○小枝委員長 ありがとうございます。

加えて、少し公式の場ですので、前回、八木さんと高山さんから伺ったところの感想、メモで出していただきましたけれども、その部分は資料には公式なものになりませんので、ちょっと読み上げるでも残していただけたらなと思います。

すみません。小林委員、お願いします。

○小林委員 この前の八木さん、高山会長からのお話では、やっぱり本屋さんから直接聞いたということで、本はまちの文化だと感じて生活が続いていると思いました。議会や区政がそれに応えていかななくてはいけないと思っています。まちづくりの制度として商店とか商店街が残れるような一定の条件があれば残していける政策をつくらなくてはならないなと実感しました。講師、今後取り上げてほしいのは、江戸とか関東大震災100年を見据えたテーマで、後藤氏、小藤田氏、加藤氏を取り上げてほしいなと思っています。

以上です。

○小枝委員長 はい、ありがとうございました。

引き続き、大坂委員、よろしいですか。

○大坂委員 高山さんのお話等々お伺いして、非常に歴史の重さというものは実感いたしましたし、古書店街としてもともとある資源をしっかりと活用して活動していらっしゃるんだということが改めて認識できたのかなと思っています。

改めて考えると、やはりこういった活動というものがしっかりと根づいて続いていくその背景には、やっぱり商売というものを基軸にした基盤ができているからというところが非常に大きいのかなというふうに感じました。一方で、それでも継続をしていくことに向けて様々な努力を今も未来に向かってずっとやっていく。やっていかなければつながっていかないんだなということを強く感じました。こうしたつなげていくことが、千代田区として非常に有名なコンテンツというか資源である古書店街ですら、つなげていくことに対して常日頃からしっかりと努力をしていかないとという危機感をしっかりと持ってやられているというこの大変さの認識というのが我々としてもスタート地点になるのかなというのはお話を伺っていて実感したところです。

今後取り上げたいテーマ等々なんですけども、具体的に誰とか、どういう方ということとは私の中にはないんですけども、何というんですかね、成功事例だけではなくて、失敗事例と言ったら失礼かもしれないですけども、やはりこれ苦労されていらっしゃる方、全国各地にコミュニティだったり歴史、文化、伝統というものを継続していく上で苦労されていらっしゃる方々がすごくたくさんいらっしゃると思うので、そういったなくなってしまった伝統ですとか、そういったものがどういうふうになくなっていったのかとか、そういったものを取り扱っていらっしゃるような講義だったりだとかということもある意味

我々としては知っておく必要があるのかなというふうに感じましたので、それを一つ提案させていただきます。

以上です。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

続きまして、小野なりこ委員、お願いします。

○小野委員 前回、高山さんとそれから八木さんの貴重なお話を伺いまして、ありがとうございました。やはりあの地域でもう長年営まれているという本当に様々なお話を多岐にわたって伺いましたので、歴史の重さとか深さというだけではなくて、新しいものともどうやって折り合ってきたかというようなところが随所随所で見ることができまして、非常にいい気づきの勉強会だったと思います。

今後どうやって継承していくかというところで、課題も様々おっしゃっていましたが、そういった認識というのはまちの方皆様が共有されているのかなというふうに感じながら聞いていました。その中で、今後行政でできることというのはそんなに多くはないのかなというふうに思っていて、行政でしっかりと取り組みながら支援をしていくことと、民間の力を活用するところというところを、そこにどうやって私たちが何かいい形で関わっていいのかということも非常に考えながら聞いていたんですけども、高山さんがエリマネの活用に関するようなご発言をされていて、そういったところとのうまい融合というものが新たな継承の手段としてなり得るのではないかなというようなところもさらに勉強しながら、何かいい形でこの特別委員会の意義というのを見いだせればなというふうに思いました。

そんなところで、今後取り上げたいテーマ、講師というのが、具体的にお名前があるとかではないんですけども、やっぱり継承することと発展していくことというところには一種のジレンマのようなものもあると思います。ただ、新しいところを見たりとか、いろんな手法をご存じのまちの方々というのもたくさんいらっしゃると思いますので、そういった方々のご意見ですとか、それからどういう方向性にしていきたいのかということも理解しつつ、何かこの委員会だからこそできることという着地点が何なのかということもをちょっといま一度原点に戻って、そこを考えた上で何を今後すべきかということもまた委員の皆様いろいろなご意見も聞きながら、ぜひ委員長、副委員長でもまとめていただければなというふうに思っております。

以上です。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

では、お願いします。田中さん。

○田中委員 前は神保町の古書店街の高山さんと八木さんのお話を伺いまして、継承とこれからの発展への模索などのお話を伺って、人と人とのつながりをすごく大切にされているということ、その様子がすごく伝わってきました。

私が思ったのは、近隣の大学などとも協力して——これ、ちょっと今、休憩でいいですか、一瞬。私は手書きで書いたんで、こうは書かないで、どこかの時点で変換ミスがあったんですけど、協調して、協力し合って——で、ここから、（「休憩はできない。休憩は委員長が」と呼ぶ者あり）あ、休憩できない。存続……

○小枝委員長 字が間違っている。

○田中委員 変換ミスがあったと思います。

○小枝委員長 これは書類で出ているから。

○田中委員 出ているような形。

○小林委員 公式なものじゃないから。

○田中委員 大丈夫。

○小枝委員長 公式じゃないから。

○田中委員 分かりました。

で、近隣の大学などとも協力して、発展の道があったら面白いのかなと思いました。

それで、今後取り上げたいテーマとしては、私も震災101年と桜の歴史ということで、小藤田さん、元職員の方のもの、あと、先日、外神田のちよだアースクエアで開催された、あれは何という名前でしたっけ、麴町の歴史とかを紹介する「わがまち人物館」とかの展示があったんですけども、本当に見切れないぐらいすごく多くて、あと麴町の歴史なんですけど、外神田だけだとやっぱり見れない方とかも、ちょっと遠いのでいらっしゃるかもしれないので、ぜひ麴町での開催をとということはこの間企画総務のほうでご提案させていただいたら、もうすぐに麴町出張所のほうで展示をまた再開して下さったんですね。やっぱりそういう文化芸術協会の新井会長のお話もすごく興味深く聞かせていただいたので、新井巖文化芸術協会会長のお話もお伺いしたいなと思いました。

それで、先ほど小林たかや委員がおっしゃっていた、議事録に残すだけじゃなくて、冊子だったりとか、あと、区のウェブサイトにもそういうページを残したりということもいいんじゃないかなと思います。

○小枝委員長 ありがとうございます。

続いて、白川委員、お願いします。

○白川委員 今回の勉強会を伺っていて一つ思ったのは、やっぱり一つの地域に一つの業種、これがやっぱり文化だと思います。神保町であれば古本がたくさんあるまちということで一つの業種、で、この一つの業種を守ることが、例えば神保町ではコーヒーのイメージがある、カレーのイメージがあるとかと、別のものもあるんですが、あるいは吉本の劇場があるとか、でも、結局これって古書店のイメージが派生したもので、本のまちというこの一つのイメージが派生したものですから、いかにこの神保町で本のイメージを守っていくかというのがやっぱり重要だろうと思います。

高山さんのお話でなるほどと思ったのは、共同ビルですね。一つのお店が一つの店舗を持つというのがもう限界に来ていると。はっきり言っちゃうとネットがなければもう維持できないようなお店ばかりだろうということがあります。それを一つの共同ビルの中に入れてしまうことで、家賃とかを下げる、コストを下げるということ。あるいはネットについても、今はまとまったネットサイトがありますが、そのビルで一括してやることによって相当コストも下がるし、労働の量も下がるかなというふうに思いますので、やっぱり高山さんも1回、神保町古書店ビルでしたっけ、神保町じゃないや、岩波古商店ビルでしたっけ、あれのモデルというのをもう一回しっかり勉強し直して、これで何とかいけないかというのは一つ感じました。

問題は、これお話がなかったんですけど、どうやって後継者を育てるかというところがやっぱり来ると思うんですね。そうすると、例えば地元の高校生とか中学生が1,000

人そこの現場を見たら、もしかしたら一人、俺やってもいいとか私やってもいいという子が出てくるかもしれない。だからやっぱりこのまちを見せるということですね。中学生、小学生のうちから古本というのがあるんですと。こういう仕事をしているんだというのを見せると。ほとんどの子が興味ないんですが、中には変わった子がいて、1,000分の1の変った子が、それを自分がやってもいいよと言ってくれるかもしれないから、やっぱり行政の努力というのは子どもたちに見せることだというふうに思います。

あと、結局これをどう広げるかって、今回は古書店って小売文化ですよ。飲食ももちろんそこに集まっていれば一つの文化なわけです、1地域1業種で。ただ、飲食ってバラエティーに富んでいるので、これはもう排除するしかないのかなというふうに私は思いました。というのが、もう個々の努力というのがあるので、そこに文化というものを見いだすすごく面倒くさいことになるなというふうに思いましたので、これを守るとするのはちょっと我々の手に負えないと。再開発とかそっちのほうでやっていくしかないのかなというふうに思いますので、これは文化継承ということはやらないで、やっぱり我々は小売のところをしっかりと守っていくことが重要かなというふうに思いました。

誰にお話を聞くかという、私は昔から小売をやっている人がいかにお店を守ってきたかということにやっぱり集約させたほうがいいのか。あんまり手を広げると、最終的に何もできなくなってしまうという感じがしました。誰というのはいないんですが、地元で小売をしっかりとやってこられた方に1回お話を聞くというのがいいのかというふうに思います。私が思いつく人では弓屋の小山さんとかです。ああいう方、要するに交流のネットワークがある方で古くから商売なさっている方、神田で商売なさっている方とかという方に1回お話を聞いたほうがいいのかというふうに思いました。

以上です。

○小枝委員長 ありがとうございます。

続いて、のぞわさん、お願いします。

○のぞわ委員 まず、すみません。ちょっとアンケート結果の回答を遅れまして、どうもまずは本当に申し訳ございませんでした。気をつけます。

それで、この頂いた議事録の資料が非常に内容が詰まっております、ただ、ここの時間がないのでちょっと駆け足でポイントをかいつまんでいただかせさせていただきますと、まず、私、議事録非常に内容が濃いついていて、例えば、神田の神保町なんですけれども、やはり一番大きく関東大震災でもって店のありようが変わりました。それでもうそれを乗り越えて今来ると。つまり今、私は2025年度末、2026年3月までは、やはり今地震が多く頻発しております、やはり防災というのがすごく大切なんですけれども、それも捉まえて、でも、高山会長もおっしゃっているように、まちづくりに関して1階は全部お店が入るべきだというお話もありまして、そういうのも含めて、大至急にまちの神田の街並みのほうに関しましていろいろ議論をしなくてはいけない時期にあるのかなというふうに思ったりしております。

これもまた深めるポイントだと思うんですが、またそれ以上に、今回、予算委員会でございまして、私も予算委員会で質問できたらと思っております、いっぱいあるんですけどちょっと今なかなかお話をできないんですけど、この中に「神保町を元気にする会」という組織がありまして、15年ぐらい運用されているんですが、15年ぐらいになるんです

けども、そういう組織は本当に手弁当で出版の皆さんも会費を払ってくれているんですが、それから古書店も払ってくれていますが、そういう形で一つよりどころみたいなものをつくって、そういうところはやっているんですけども、なかなかそれも大変なんです。費用もかかる。事務局が事務局の経費を払えないで、みんながもう本当に手弁当で持ち帰りでやっていて、ちょっと実はもう八木さんと頭を抱えているところなんです。神保町を元気にする会の行く末を、神田の古本連盟というのは割としっかりしているんですが、動いているんですけども。だから僕は、再開発の中でエリアマネジメント、これは先ほどの委員もおっしゃったところなんですけど、エリアマネジメントというのがありますと、僕はエリアマネジメントがこの先これだけ、この間も聞いたら20幾つもの今開発が千代田区の中にかかっているという中で、僕はエリアマネジメントのお仕事の中にそういうまちの文化を継承していくような機能をお願いして、やはりどれぐらい財源的にどのようか分からないですけど、でもやれる力があるんだと思うんで、やはりエリアマネジメントの中でそういう地域の文化という、そういうものを担ってってもらいたいなと。そうじゃないともう本当に事務局も八木さんと僕とでやっているんだけど、もう息が、この年になってなかなか若手がまだまたつないでいってもらえないかというところがあります。組織としては、もう本当に何度も申し上げるけれども、手弁当でやっているんで、その辺りでちゃんとした見える形で、今後もサステナブルでこういう組織がやっていけるようなものをどこか担ってってもらいたいなと。僕はエリマネがその役割を担ってくれるかなと思っているんで、この辺りも一度議会の中でエリマネの役目みたいなものを話してもらおうというところがあるといいなと思っていますけどね。

すみません。ちょっとどんどん読み上げていきますけど、これだけ非常に大切なポイントがお話をしていただくと浮き上がってくる。この委員会の意味はここにあるんじゃないかなと思ひましてですね。もっと読んでいいですか、駄目ですか。

○白川委員　まとめてください。

○のざわ委員　じゃあ、ちょっとまとめさせていただきます。あと、野上さんと佐藤さんというボランティアの方がいて、野上さんがおっしゃっているんですけども、ちょっとじゃあかなり割愛しますが、神保町というのは世界に誇る、ロンドンの古書街にも全く全然少なくなくて、やっぱり神保町は世界に誇る古書店街でありまして、やはりそれから日本の文化の誕生の起源になったエリアじゃないかということで、やっぱり周知はしていきたいなというのがありますし、また、日本ペンクラブが企画しまして神保町を元気にする会の主催で、講演だけじゃなくて映像を表現するとともに、これからシンポジウムを現代作家たちが出てきてもらいながら、現代文化にどのような影響を与えたかというようなことを神保町にゆかりのある作家たちを中心にしながら話をしてもらおうかなというイベントを考えていて、こういう今デジタルとか画像とか映像とか残せますので、こういうのもいいのかなと。あと、八木さんが、私たちのほうで区のほうにもお願いしたいなと思っているんですけど、各町のいろんなまちでそういうことを企画したときにバックアップをしてもらっていて、ぜひご相談させてくださいということもお話をされていまして、こういうのももう一回掘り下げる必要があるのかなと思ひまして、すみません。お金のことばかり言っているんですけど、やっぱりお金ってすごい大事かなと思ひまして、またせっかくこういうことをやるんでしたら、そういうところも深く掘り下げていくことがいいんじゃない

ないかと。

すみません。ちょっと長くなりましたが、これが私の、もっと、もう一回議事録を見ながら掘り下げるところがいっぱいあるのはすごいなというふうに思いました。

次の、今後取り上げたいテーマと講師というふうに移らせていただきますが、こちらのほうは、私、すみません。ちょっと、あ、これです。すみませんでした。申し訳ございません。これ、名前を言っているのかどうかあれなんですけど、一応固有名詞って大丈夫ですか。神田区文化芸術協会の新井会長のほうから、私ども維新の会で予算要望の中に入れたんですけど、何か今までもらっていた予算がもらえなくなっちゃったんで復活してくれという話もありまして、またその経緯とかも含めて掘り下げてもらおうというのあれなんですけど、ちょうど2月14日から11日にちよだアートスクエアでみんなで歌おうとか、新井会長のお話の会がありましたね。ちょっと行かせていただいたんですけど、ここですごかったのは、番町・麴町のまちの文化、文人通り、あと地域に魂が宿っているというお話を伺いまして、これはすごいなと。ちょっと私はその表現できないんですけど、物すごい該博な知識で新井会長が麴町・番町の文化について語っていらっしゃったんで、これは一見の価値があるんじゃないかと。神保町から番町・麴町に移ったということで、行ったり来たりしながら千代田区全体のまちの中での文化継承・コミュニティ活性化をしていくというのがいいんじゃないかということで提案をさせていただきまして、それで新井会長以外にも、私は副理事長さんの安田さんという方が、安田郁子さんという方がいるんですが、その方が非常に歌とか非常に一生懸命やっていたらっしゃったんで、ちょうどお二人で千代田区文化芸術協会を回しているようにも見えましたんで、そんなお話をさせていただくと、またちょっと番町・麴町の文化継承・コミュニティ活性化特別委員会の何か新しい課題が見えてくるんじゃないかなと思って、こちらのほうを出させていただきました。

以上でございます。

○小枝委員長 ありがとうございます。

では、入山副委員長、お願いいたします。

○入山副委員長 今回、神保町のまちの件で、高山様、八木様からお時間を頂き、貴重なお話を伺えて、本当にありがとうございます。

神保町の古書店街の歴史についていろいろお話も頂きましたし、さらには何校もあります大学のことも伺いました。また、まちのこともいろいろ高速道路の話とか、地下鉄の話とかも伺って、本当に貴重な機会だなと思いました。また、その中で次世代につなぐために何ができるかと。もっと話し合えればなと思っている中で、事業承継の話なんかもあったんですけども、相続とか建物の老朽化など、簡単に1年、2年ではもう考えられないようなことがいっぱいあると思います。5年、10年というスパンを考えて、いろんなことに課題に向き合っていきたいなと思っています。またその中でも、文化、伝統、お祭りとかお稲荷さんだとか、そういう側面もあるのかなと思っています。

今後取り上げたいテーマなんですけども、先ほど申し上げましたとおり、千代田区にお住まい、もしくは商売している方のこれからどうやってやっていくかという商売のやり方とか、先ほどの事業承継もそうですけどもという中で、商店や会社をつないでいくためにそういう仕組みを専門的な勉強会的なものをちょっとやっていければいいかなと思っています。またそれ以外にも、先ほど申し上げましたとおり、文化的な行事、お祭りも含めて、

神社仏閣について勉強できればなと思います。

あと1番は、千代田区のブランドをもっと上げていきたいなというところがあります。その中で、講師は小藤田先生の講義を受けたいなとは思っております。

以上です。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

では、ちょっと私のほうから。

すみません。ご意見をありがとうございました。ちょっと12月の議会から日にちがたってしまって、もっと早く皆さんにこうした感想を述べたりしてもらえたらなと思っておりましてけれども、ちょっと私が個人的にいろいろ体調不十分もあったりとかしてご迷惑をおかけしております。でも、今頂いたご意見、私のほうからのご意見も少し述べさせていただくと、やはり高山さん、八木さんからのお話を聞いて、こういった今130軒ということでしたけれども、古書店を継続してきた背景には、本当に並々ならぬ努力とつながり、連携があったなというふうなことを思いました。で、おっしゃっていた中で、古書会館というのを造ってそこで協同組合につながったことが、1店舗で、何というか、勝負するんじゃなくて、やっぱり集積のメリットというのが世界に向かって出せたんだと。それはもうハーバードからロンドンの何とかまで、もうここに行けば世界のものがあるというふうな、そしてまたお客様の要求に答えられるように努力をしているという話だったなというふうに感心しました。

それについて皆さんからも意見を頂いたわけですが、ソフトの点からどう考えたらいいか、そしてハードの点からどう考えたらいいかというふうにと考えると、ソフトの点から考えれば、確かにエリアマネジメント、町会や商店街だけではなかなか立ち行かなくなる状況の中、どう新たなつながりをつくっていくかということは一つ研究・検討の課題だというふうには思います。一方で、ハードの点からすると、本来であればまちづくりのほうに踏み込んでいくというのが当初の思惑と言ってはなんですけれども、1年目は課題出し、2年目のところでまちづくりなども入れてやっていけたらいいというふうに思ったわけなんですけれども、また高山さんのほうからもやはり共同化という話がありました。そういうふうなところに行きたいところは山々なんですけど、ちょっと今のところまだ皆さんから頂いたように、課題共有ということを引き続きさせていただきたいと思っております。

そして私のほうは、皆さんのいろんな意見を聞きながら、ちょっと同じようなことを書いて述べてしまっているんですけど、今新たに考えているところは、再開発という形によって歴史保存をするやり方、それから共同化という形によって古くからの商店街を残すやり方、それからリノベーション、リファインによって残すやり方、様々な幾つかのやり方があるんだというふうに思います。その点で、一番千代田区としては取り遅れている部分が、若干高山さんからもお名前が出たんですけど、リファイニングの先生で、街並み保存や歴史保存をやっているらっしゃる、明治大学の田村誠邦先生という方がいらっしゃいます。それから建築家で青木茂先生という方もいらっしゃいます。港区では伝承館とって、置屋というんでしょうかね、そうした木造家屋を保存するというようなこともやっています。そうしたことも学べたらなというふうに思っております。ただ、この日程感でどれだけまだできるかということもありますし、皆さんから今日頂いたご意

見をもう一遍正副のほうで1回取りまとめをさせていただいて、そしてその中で優先的に課題共有できるテーマ、講師、そうしたものを皆さんに相談させていただきながら次の回まで絞り込んでいきたいというふうに思っておりますけれども、そうした点からまたご意見を頂ければと思います。いかがでしょうか。

そうですか。はい。ありがとうございます。

○白川委員 ちょっと1点いいですか。

○小枝委員長 ありがとうございます。はい、白川委員。

○白川委員 前、私、神田に引っ越す前に神田学会というところに入会してまして、かなり東京大学の建築科かな、都市工学の先生の案内で神田を回るというツアーをやったりとか、飲み会があったりとか、相当そういった古い建物とか商売に関してノウハウがたけているみたいなんですよ。（発言する者あり）ええ、そこと連携するというのが私はちょっと早いかかと。ゼロから我々がやっていくとちょっともったいないかなという感じはします。

○小枝委員長 はい。ご意見を頂きました。

神田学会、本当に素晴らしい研究会をずっと続けていて、皆様とも情報共有していきたい。たしか近々にそれこそ3月始まりに勉強会が、街歩きの勉強会があるようなご案内もあったかと思います。そうした情報も共有しながら、民間のそうしたエネルギーや知識の集積もぜひ共有していけたらというふうに思います。

ほかに何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 よろしい。はい。

それでは、日程1を終了させていただきます。

次に、日程2のその他に入ります。委員の方から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。

次に、日程3、閉会中の特定事件継続調査事項について、閉会中といえども委員会が開会できるように議長に申し入れたいと思いますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。

それでは、本日はこの程度をもちまして、閉会といたします。ありがとうございました。

午後3時24分閉会